

10月14日（水）第3回市民ワークショップ 記録

富田さん：第3回ワークショップを行います。それでは、前田先生お願いします。

移住者ゲスト：岡 孝彦さん、長谷波比呂志さん、本多久満子さん
(前田先生が3人の移住者に質問をしていく。)

前田先生：今までのお話を聞いて、移住者がここで住み続けていくために、自分たちはこういうことならできるそうだ、こんな応援ならできるかもしれない、というようなことを各テーブルでお話していただいて、自分たちはこんなことだったらできるというようなことを考えていただきたいと思います。それではどうぞ。

～各グループでワークショップ～

前田先生：それでは、発表していただきたいと思います。

1番目のグループ：これから双海に暮らしていくことを考えたときに、医療の問題があります。双海には下灘診療所の1つしかなく、ここがなくなったらどうしようという不安があります。ただ、双海に大きな病院を入れてもというところは感じます。

移住して1年目のお金は思った以上にかかる。2年目になると少し落ち着いてきて、生活に慣れたところがあって、今まで使っていた生活費が10万円かかっていたところを3万円の生活費にする場合、ある程度期間が必要で、最初の1年目はどこからかお金などの支援があれば良いのではないかと思いました。

あとは、移住者の改修費が200万かかったと言っていました、実際はもっとかかります。200万円で、どうにか最低限の生活ができるというレベルです。憧れの田舎暮らしに近づけようと思うと、こだわればこだわるほどもっとお金がかかります。あるいは新しい商売を始める際にもお金がかかります。そういったものは、融資制度があったり、助成事業があったりするので、そういった情報を提供してあげて、書類も書いてあげることができたらいいかなと思います。情報があるのは知っていますが、それをどのように申請したら良いか分からなかったり、どういう風に書類を作ったら良いのか分からなかったりするので、相談窓口があったら良いなと思いました。あとは、地域にあるパートタイム情報のようなものが分かるものがあれば良いと思いました。

あと、長谷波さんの話であった、町内での引越しの可能性はあります。それは、周りに暮らしていく人がいなくなったら住むことはできなくなるからです。世帯数の少ない地域にも、きめ細かく行き届くようなサービスを行政が目指して欲しいです。以上です。

前田先生：ありがとうございました。では次のグループをお願いします。

2番目のグループ：大きく分かれて、仕事、お金、家に課題があります。

仕事の面では、今までの生活水準に合わせるために、バイトを掛け持ちすることで、自分自身の時間が少なくなり、家族との時間のバランスが崩れてしまいます。

お金の面では、保育料のことに關しても、算定方法が、前年度の所得に応じて変わるのでどうしても収支のバランスが崩れ、負担になってしまいます。

家にも、修繕費がかなりかかります。その次に、それぞれの課題の解決方法について考えました。

仕事の問題に關しては、起業支援、生活を営むための仕事をつくります。双海版のハローワークを作っていけば良いのではないかと、という意見が出ました。

お金の問題に關しては、自分たちがこんなのがあったら良いなと思うことを考えていきました。保育料については、子どもたちの人数に合わせた補助が必要です。税金の算定額を少しでも移住者にやさしい額にするようなことも大事です。また、移住者に対しての減税措置や、3年間補助金を支給することも良いと思います。

また、移住者の暮らしぶりの分かるものを情報提供して、次の移住者に呼び込めるようなことをすればいいのではないかと考えました。

住宅の問題に關しては、移住者の住宅の建設、市営住宅の増設など、家賃の安い家で負担にならない住居を作れば良いのではないのでしょうか。また、空き家の改修費を無料にすればいいのではないのでしょうか。そして、空き家の情報も充実すれば、もっと住みやすいのではないのでしょうか。

また、仕事の問題に關して、相談してもらい回しにされたという話があったように、行政はその人たちの声を拾うことが大事です。また、移住に關するワンストップ窓口を作りたいです。また、それをホームページなどで公表すればいいのではないのでしょうか。

前田先生：ありがとうございました。では次のグループをお願いします。

3番目のグループ：問題点は病院が遠い、買い物する場所がないという場所の問題があります。また、借りられる農地の場所がないなど、外から来る人はそもそも情報も既存の資産もないので、そういうものがどこにあるのか、誰に聞けばいいのかということがとても乏しいです。後は、地元の仕事が見つけにくいです。実際に農業をやろうと思っている人がいても、どんな農地がいいか分からないというように、情報が手に入らないことができないという問題もあります。そのところでどんな対策していくか考えたときに、情報提供してもらいます。買い物する場所が無いときには、皆さん情報が無いなら無いなりにどうにかしているのか、どういう風に暮らしているかというところの活きた情報を提供する何かがあれば良いかなと思います。

また、農地とか一次産業の継承は、外から来る人は資産が無いので、資産とつながる仕組みやネットワークがあればいいと思います。農地バンクというのは20～30年あるけれども、もっと実際に使える農地やレンタルしてくれる情報も含めた、ローカルな農地バンクがあればいいなと思いました。

仕事が無いというところで、グループの中であった話では、本多さんが周防大島に行った際、使わなかったり、売れなかったりした果物や野菜をうまく利用してジャムを作っているお店があり、島外から来た7～8人の雇用を生み出しているとのことでした。そのように今まで捨てていたようなものを利用することで、新たなビジネスが生まれてくるような流れが生まれてくると雇用も生まれ、新たな魅力の発信につながるのではないかという意見が出ました。

有機農業をやる際に、周りからの色んな意見を言われ、実際に農業ができないという方がグループ内にいましたが、人里から離れたところであれば、自由にできることもあります。双海の手奥であったら、それが可能ではないのかという意見もありました。

双海が良いと思って来てくれている方は、何らかの魅力を感じており、その方が、その土地の感じた姿を伝えて移住希望者と向き合っていくことができれば、お金とか資産だけではない、双海独自のものができるとは思いました。

もっと言えば、夫婦の場合、決定権は奥さんにあることが多いので、女性の琴線に触れるものがあればより良いと考えました。

前田先生：ありがとうございました。次のグループをお願いします。

4番目のグループ：まず、家のことと仕事のことがあります。家のことでいうと、佐礼谷の田中さんが地域おこし協力隊に入るにあたり、佐礼谷でまず住んでもらうための家を200万円かけて改修し、そこに住んでもらいました。協力隊の家賃は活動費から出るので、それで3年間払うことができるくらい、もともとの見込みで改修受け入れをしたということがありました。

協力隊であれば、そういうことが可能です。協力隊でなくても、お試し住宅が用意でき、家賃が入ってきてというものがあれば良いが、実現は難しいです。仕事のことでは、簡単に紹介できません。仕事の際は、人間関係ができてから出なければ、紹介できないというところがあります。

ただ、アルバイトや農業をしながら起業支援してもらい、生活していき、地盤を築いていけば良いのではないのでしょうか。このようなアドバイスを地域おこし協力隊の私が移住者に対して応援できることです。

あと、地域おこし協力隊で独身であれば、家賃も活動費から支給され、保育料など子育てにかかるお金などもかからないため、お金がかかったという印象はありません。ただ、車はお金がかかりました。生活費はかかっていません。協力隊になってからすぐに、あいさ

つ周りをしました。好きな食べ物や畑がしたいというようなアピールができたことで、自分の存在が認知され、その後の交渉や何かを紹介してもらうことをスムーズにできました。最初に生活に必要なものをそろえる際、リサイクルセンターみたいに、地域で移住者のための欲しいものが、一括で管理されているような施設があったら使いやすいのかなという話もありました。ただそれは、あくまで買い物としてではなく、個人が交渉して、欲しいものを得るといようなものです。そのような過程を経ることで、移住者と地域住民との人間関係ができるからです。お手軽に何もかもそろえるということではありません。また、足りない物があれば、それならこの誰かに頼めば解決できるというようなリストがあれば良いと思います。そこまでのノウハウは教えてあげても良いと思います。以上で終わります。

前田先生：ありがとうございました。次のグループをお願いします。

5番目のグループ：移住者が移住してきてから、自分たちが何をサポートできるか考えました。最初に、地域のことに溶け込めるように、挨拶をすることです。うちの子どもが積極的にあいさつをしていたため、移住する前から近所の方は子どもを含め、自分たち家族のことを知っていました。都会のままの気持ちで移住してくると絶対失敗します。家族全体が自分から声をかけて、自分たちを出さないで溶け込めません。

また、移住者に対してやってあげないと困ると思ったのは、地域によって部落でのしきたりや行事ごとが違っていて分からないことです。その行事ごとが子どものいない部落にあると、学校との連携が無いので、部落の行事を優先されていきます。そうすると、部落の行事と学校の行事が重なっていきます。部落の方に相談したところ、途中で行事の日程を決める際、学校の行事と重なってないかと気にしてくれるようになりました。このように声かけをすることが大事です。

そのように人間関係を作った後、畑を始めようと畑を耕していると、苗をもらうことがあったり、すいかやびわなどをくれたり色々してくれますが、そのお返しに物を買って持っていてももらってくれません。しかし、そのもらった物で、かき揚げやコロケを作ってお返しすると、とても喜んでもらえました。

他の問題点は、病院が無いことです。救急も無く、小児科もどこに行けばいいか分からないので、移住者が来たときにはこのようなことを伝えれば良いと思います。

前田先生：ありがとうございました。次のグループをお願いします。

6番目のグループ：ここは郡中の人ほとんどで、本多さんに入ってもらいました。

私たちに何ができるかを考えたときに、まずは、野菜のおすそ分けをします。岡さんの話で地域の在宅介護の話がありましたが、在宅で暮らしていけるサービスの事業所があれば

良いです。元々ここに住んでいた方が、ずっと住み続けられるような地域だからこそ魅力があります。

パン屋さんができたように、移住してきた方が仕事をはじめたということで、みんながいろんな方に紹介するような応援の仕方があります。また、元々地元にあるお店も応援していかなければなりません。そして、パン屋さんの店舗の縁側は良い地域コミュニティができています。

本多さんの夫婦は、子守とご飯作りに困ったと言われていました。

保育料のことは自分たちで何とかできる問題ではありません。今年の所得は今年には分からないので、社会の仕組み上、前年度の所得になるのは仕方が無いことではありますが、それを移住する前に、知っているかどうかだけでも違います。お金のことは情報提供してあげるべきです。

双海の方が、今の伊予市に合併してから、伊予農業高校が自分の市の学校になりました。だじゃれは少し現実をやわらかくするものであると考えます。同じ伊予市でも旧伊予市と旧双海町ではお互いに知らないような風習があったりするので、お互いのことを知ることも必要ではないでしょうか。

救急車が呼びたくても台数が少なくて呼べないことがあります。都会でも救急車はそう捕まえることができません。大事なことは救急車が呼べないとき、自分たちで対処の仕方を知っていることです。それを移住者に伝えてあげれば良いと思いました。

前田先生：ありがとうございます。皆さんの話を聞いている中で、少し思ったのは、基本的には、情報が大事だということです。その情報も、生活や家に関するものをいかに伝えていくのかということが大事です。役所にワンストップ窓口があったら良いなという話がありましたが、自主運営型のワンストップの相談窓口があったら良いのではないのでしょうか。役所というのは縦割り化していますが、市民は自分自身が総合化して、いろんなことを引き受けているということはたくさんあります。自主運営型の窓口を作るというのも、自分たちで頑張れるものなのかなという感じはしました。ハローワークも同じで、自分たちの口コミのようなものを含めて、互助型の公のサービスではできないことを考えて、情報を集めてやっていくということをやっていかなければなりません。公にあまり頼らずに、自分たちが欲しいものを提供していくのはありだと思います。生きていく上でのスキル、農業のスキルといったものも継承していかなければなりません。

それから起業者へのサポートも必要です。起業者の作ったものを買うこともありですし、在宅サービスの話があったように、これからの高齢に向けての在宅サービスをどう支援していくかというところで、周りがどんどん応援してしていくことが大事です。

もう一つは、相互扶助型です。周りの人と向き合う支援のようなものをどうしていくのかという話が大きいです。やっぱり頼むということがすごく大事だったりします。受援力という、支援を受ける力を養っていくことが大事かと思います。基本は挨拶することから始

まり、地域のルールをちゃんと聞くことや、自分なりのお返しをするなどということから行動を起こさないと、待っていても難しいところはあるので、そういうのをどういう風にしたら良いのかというように支援をし合います。その中で、関係が悪くなったからだじゃれで癒すと言うのも必要でしょう。具体的なところでいうと、住宅の家賃の支援の仕組みや、リサイクル型の支援のようなことも含めて、これらも相互扶助の発展系なので、そういう相互扶助型の社会の中に自分たちが入って、生活をしていきます。それは、地位が持っている相互扶助の力を活用するということに繋がっていくので、そういうことを考えていきながら、自分たちの仕組みの中の、そういう人たちを飛び込んでいけるようなことができればいいなと感じさせていただきました。

これからアクションプランを作るうえで参考になる意見が出たのかなと思います。これでワークショップを終わります。皆さんご協力ありがとうございました。

富田さん：みなさんありがとうございました。次回、第4回もありますので、ご参加のほどよろしく申し上げます。それではワークショップを閉会させていただきます。

